

近代美術館の移転新築について

<美術館の新たな取組み>

資料5

見たいポスターに触ると
原寸大に拡大され詳細情報が
表示されます

ポスターの展示



操作イメージ



イメージ図

椅子の展示



展示イメージ



イメージ図

運営面での配慮

- アトリエやギャラリーなどでの教育普及、創作・展示などを重視
- 教育機関や市町村等との連携を推進

○ 世界に誇れる20世紀美術コレクション **約270億円 (取得金額の約5倍)**

- ポスターや椅子など、デザイン関連の収蔵品
- 美術品の保全に適していない消火、空調設備、耐震性の不足
- 美術品補償制度に対応できず美術館連携から孤立の恐れ

平成23年4月法律公布、同年6月施行



ポール・デルボ
「夜の汽車」(6億円)



パブロ・ピカソ
「闘牛場の入口」(8億円)



パブロ・ピカソ
「肘掛け椅子の女」
(18億円)

「県立文化施設耐震化・整備充実検討委員会」の報告

○現施設の改修の場合、

H25. 9. 2

- ①約25～30億円の経費を要する。
- ②意匠・美観が損なわれ、使用制限が生じるなどの課題が残る。

富岩運河環水公園への移転新築(約70億円)を提言 → 9月補正で
設計費計上

新富山県立近代美術館(仮称)基本計画策定 (H25.10.12)

設計者：内藤廣建築設計事務所

新富山県立近代美術館(仮称)の基本設計に着手 (H25.12月)

(参考) 移転新築による増加額(約40億円)の財源は、
「地域の元気臨時交付金」約145億円を活用